

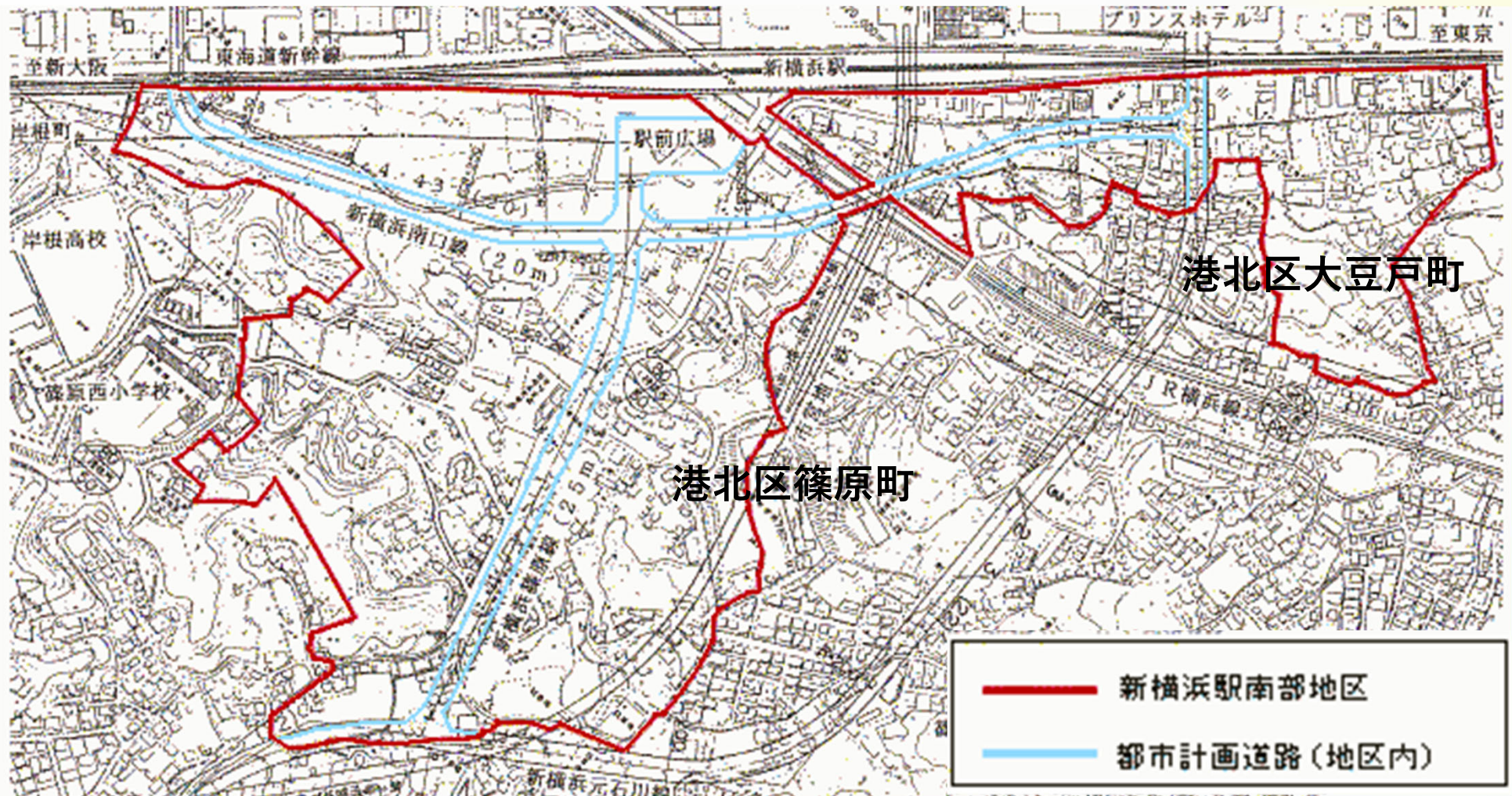
新横浜駅南部地区の まちづくりの経過

横浜市 都市整備局

説明の流れ

1. 新横浜駅南部地区について
2. 新横浜駅南部地区の新たなまちづくりの考え方
(平成22年)
3. まちづくりの経過

1. 新横浜駅南部地区について



土地区画整理事業の事業計画廃止

1. 新横浜駅南部地区について (まちづくりの課題)

駅へのアクセス道路は、
歩道が整備されていません。



幅員が狭く、信号による交互
通行となっています。

1. 新横浜駅南部地区について (まちづくりの課題)

駅前は、広く駐輪スペースと
なっており快適に利用できません。



台風の大雨で駅前が冠水するなど
下水道整備が十分ではありません。

2. 新横浜駅南部地区の新たなまちづくりの考え方 (平成22年)

平成15年 新横浜駅南部地区土地区画整理事業の事業計画廃止

- ・ 地権者との対話
- ・ まちの課題の見直し
- ・ 課題解決方策の検討

平成22年 新横浜駅南部地区まちづくりミーティング※の開催
「新横浜駅南部地区における横浜市の
新たなまちづくりの考え方(案)」公表

※新横浜駅南部地区まちづくりミーティング

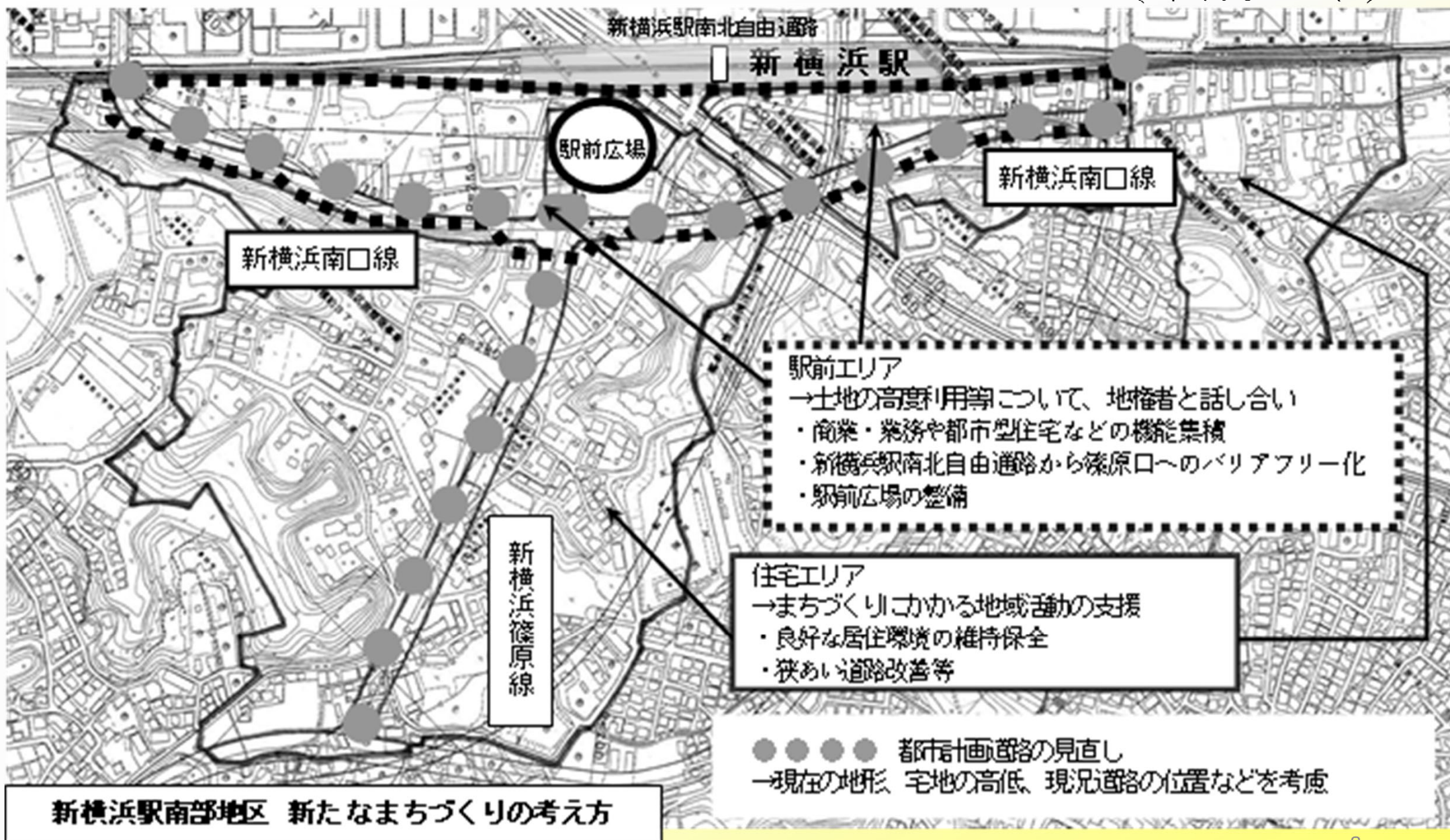
まちづくりの検討手順や地域住民の意向反映方法等について、
地域住民の立場から行政に対して助言・協力を行う。

(メンバー) 新横浜駅南部地区とその周辺の自治会・町内会、
周辺小中学校のPTA

2. 新横浜駅南部地区の新たなまちづくりの考え方 (平成22年)

- (1) 新たなまちづくりは、地域の合意形成を大切に、合意がとれた所から段階的に進めていきます。
 - (2) 新たなまちづくりの計画が策定される段階で、旧土地区画整理事業の都市計画決定を廃止します。
 - (3) 土地利用については、土地の高度利用を検討する「駅前エリア」と、現在の住環境を維持する「住宅エリア」に分けます。
- 駅前エリアでは、土地の高度利用等について、地権者と話し合いを進めます。
 - 住宅エリアでは、地域の要望に応じて、まちづくりの組織づくり、ルールづくり、プランづくりなどの地域活動を支援します。

2. 新横浜駅南部地区の新たなまちづくりの考え方 (平成22年)



2. 新横浜駅南部地区の新たなまちづくりの考え方 (平成22年)

(4) 地域の幹線となる道路については、新横浜駅の南側からのアクセス向上や、地区内の歩行者の安全確保のため、駅前エリアの開発事業に併せた整備を目指します。

なお、今の都市計画道路（新横浜篠原線、新横浜南口線）は、旧土地区画整理事業による大規模な造成を前提としているため、これを現在の地形、宅地の高低、現況道路の位置などを考慮し、新たなまちづくりの計画に合わせて、線形・幅員を見直します。

(5) 下水道については、大豆戸町では平成22年度より工事に着手します。

篠原町では、新たなまちづくりの計画が策定された段階で整備を開始しますが、汚水については検討の結果、先行的な整備が可能になりましたので、雨水に先行して整備します。

2. 新横浜駅南部地区の新たなまちづくりの考え方 (平成22年)

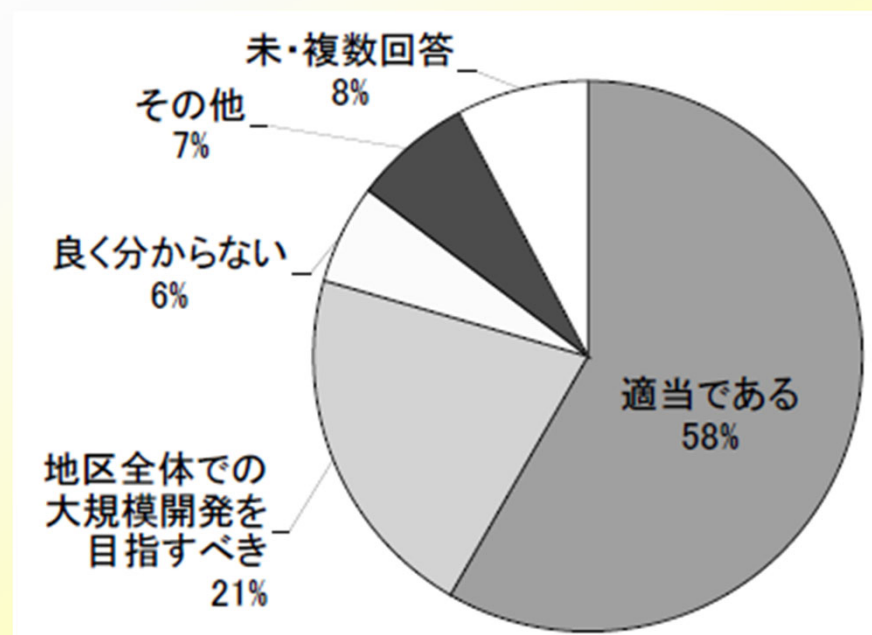
平成23年 「新たなまちづくりの考え方(案)」 に関するアンケートの実施

(配布枚数：1,543部 回収枚数：332 回収率：約22%)

アンケート結果 (一例)
市のまちづくりの進め方について

【市の考え方】

当初計画した、土地区画整理事業のように一気に開発するのではなく、地域の合意形成を大切に、合意がとれた所から段階的に進めたい。



アンケート結果は「新横南部まちづくりニュース第4号」参照

⇒概ね「新たなまちづくりの考え方」沿った意見をいただきました。

3. まちづくりの経過

- ・ 駅前エリアでの地権者との話し合いについて
新たなまちづくりの考え方（3）
- ・ 住宅エリアでのまちづくり活動支援について
新たなまちづくりの考え方（3）
- ・ 地区の幹線道路、都市計画道路の検討について
新たなまちづくりの考え方（4）
- ・ 下水道の整備について 新たなまちづくりの考え方（5）

3. まちづくりの経過

- ・ 駅前エリアでの地権者との話し合いについて



駅前エリアA

地権者への意向調査や土地区画整理事業構想図の検討などを行いましたが、事業性検証の中で、高い減歩率が課題となり、事業推進困難になりました。その後、駅直近の範囲で市街地再開発事業の検討を開始し、現在、市街地再開発準備組合が結成され、実現に向けて取り組んでいます。

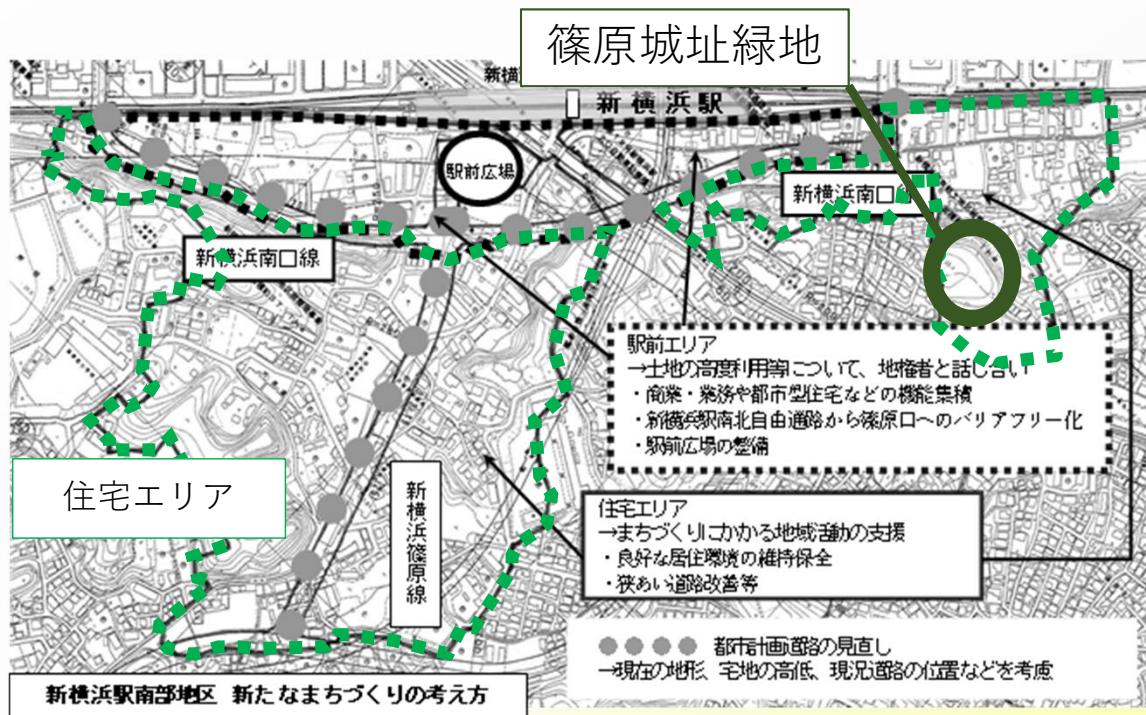
駅前エリアB

市職員が地権者へ個別訪問し、高度利用や市街地開発事業の意向確認等を行いましたが、地権者組織の結成等には至りませんでした。

駅前地下道にエレベーターが設置され、バリアフリー化されました。

3. まちづくりの経過

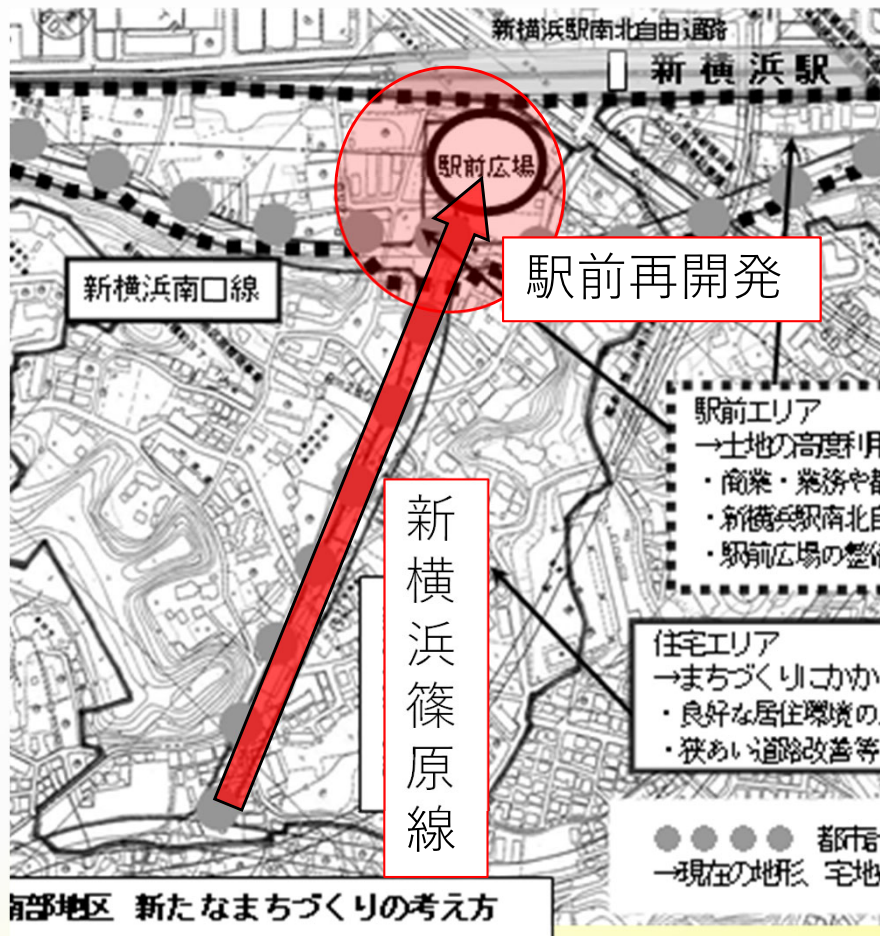
・住宅エリアでのまちづくり活動支援について



- 篠原城址緑地の保存活動への支援
- 篠原口駅前の利便性快適性向上
(オープンスペース整備
利便施設の立地、など)
- 駅へのアクセス道路等の整備
(歩道整備や交通環境の改善など)
に多くの要望が寄せられています。

3. まちづくりの経過

- 地区の幹線道路、都市計画道路の検討について



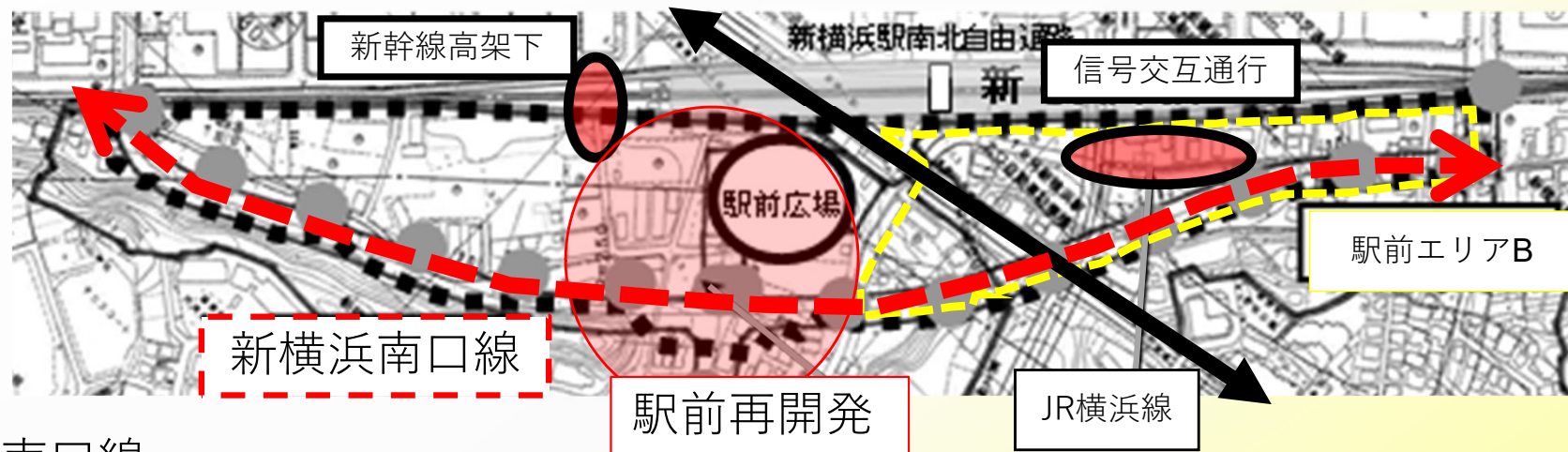
新横浜篠原線

- 平行する現在の道路が駅にアクセスする地区の幹線道路で、歩道設置など改善の必要性が高い。
- 検討中の駅前再開発事業との連携も考慮する必要があります。

現道にあわせた線形や、将来の交通量等を想定した適切な幅員に見直す検討を実施しています。

3. まちづくりの経過

- 地区の幹線道路、都市計画道路の検討について



新横浜南口線

- 東側JR横浜線を跨ぐ道路の整備は、駅前エリアBでの区画整理等、大規模な開発をあわせて実施しないと実現できません。実現可能性を考慮し、地域の交通課題である信号交互通行の解消方策を検討しています。
- 西側は駅前再開発事業検討にあわせて最適なルートを検証し、新幹線高架下をくぐり、篠原町と新横浜1丁目をつなぐ道路の改良を検討しています。

3. まちづくりの経過

• 下水道の整備について

平成23年1月より順次、汚水の公共下水管の整備を実施してきました。現在、約37haの区域内的の汚水管の整備は完了しています。

雨水については、大豆戸町側は整備が完了しましたが、篠原町側は大雨に対応した整備水準に届いていません。

区画整理事業区域 下水道供用開始区域

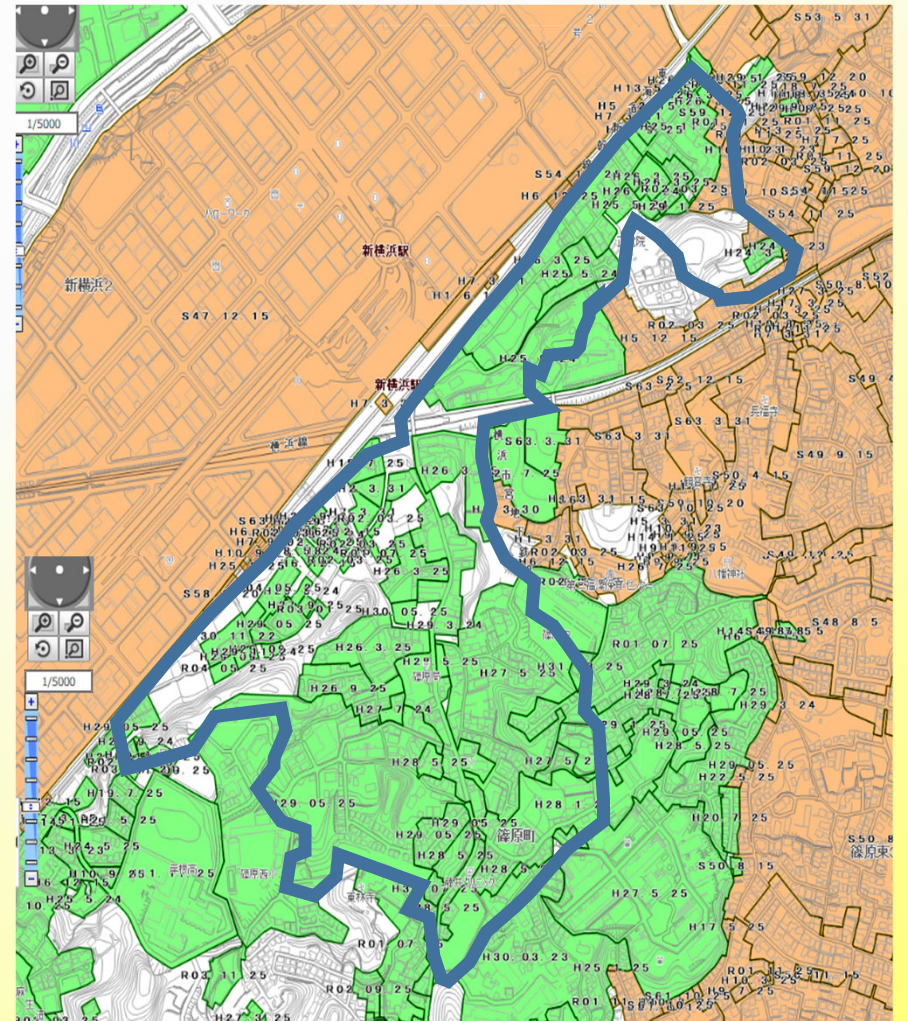


分流式



合流式

下水道整備状況（汚水）



白抜き箇所（山林・更地等）は宅地内の最終枡の位置が決定次第整備

おわりに

残されたまちづくりの課題に対応するため、
新たなまちづくり計画を立案しました。

詳しくは、「新横浜駅篠原口のまちづくり計画（案）」
をご覧ください。